

テーマ：持続可能な開発目標 (SDGs) を教室に！

会場：東京学芸大学 北講義棟 (N棟) N304 教室

参加費無料 (資料代として 1000 円を徴収予定)

全体進行：高田研 (学会企画委員長、都留文科大学教授)

《プログラム》

1. プロローグ：新学習指導要領と持続可能な開発目標 (SDGs) のための教育 (9:00~9:40)

いま、持続可能な開発目標 (SDGs) がブレイク中です。2015年の国連持続可能な開発サミットで、2030年までに取り組むべき目標として採択された SDGs (Sustainable Development Goals) は、産業界でも目標達成に協力する姿勢が鮮明になってきています。多くの企業が「CSR (企業の社会的責任) レポート」で SDGs に言及し始めており、日本経済団体連合会も「企業行動憲章」を2017年11月に改訂して SDGs の達成への協力姿勢を示しています。これからは、「持続可能な社会の創り手」を育むことを掲げた新学習指導要領に向けて、学校も SDGs に正面から取り組むことが求められています。

話題提供者：現在交渉中

2. 小中学生による SDGs カードゲーム (9:45~11:45)

(ユネスコスクール・ネットワークとの共催企画)

17のゴールを達成するために、チームで協力して他チームに交渉しゴールを目指すというカードゲームを小中学生が実施します。NPOが多方面で展開しているものですが、企業や行政、学校でも取り組まれ始めています。環境問題が多様な要素を内包していることに気づき、SDGsへの取り組みへの意欲を高めることができます。カードゲーム後の振り返りが、実はこのアクティビティの柱です。中学生のリードで小学生が話し合い、意見を高めていく過程で、2030年に大人になる自分事として、温暖化やその他のゴールについての取り組み意識や実践について思考し発言します。2030年の環境問題とその他の社会問題の真ただ中に入る児童生徒の変容を参加者に見ていただくこととなります。児童生徒が変容します。

参加校 (予定)

大田区立大森第六中学校、杉並区立西田小学校、多摩市立連光寺小学校ほか
協力：辰野まどかさん (一般社団法人 GiFT (グローバル教育推進プロジェクト))

3. 探究型授業の創り方 (12:30~13:30)

本学会の学校環境教育プロジェクトが作成中の「環境学習のラーニング・デザインーアクティブラーニングで学ぶ持続可能な社会づくりー」を用いて、授業を探究型にする【ウェビング】【タイムライン】【ジグソー法】【フォトランゲージ】【ディベート】【ワールドカフェ】【タウンウォッチング】【ロールプレイング】【ランキング】【ディスカッション】【KP法プレゼンテーション】【Project Based Learning】などの手法を紹介し、そのうちの2つほどを実践します。

ファシリテーター：水山光春 (学会副会長、青山学院大学教授)